



霞ヶ浦市民協会 NEWS

(仮称/タイトル募集中!)

VOL. 1 No. 1

(社)霞ヶ浦市民協会 〒300 茨城県土浦市川口2-13-6
TEL 0298-21-0552・21-0660 FAX 0298-21-6209
郵便振替口座00120-9-726025/名義:(社)霞ヶ浦市民協会



挨拶する堀越昭理事長

(社)霞ヶ浦市民協会

発足のご挨拶

理事長 堀越 昭

去る9月1日、霞ヶ浦湖畔・土浦バイオパーク隣地において橋本知事をはじめ各界からの来賓の皆様ご臨席のもと、社団法人霞ヶ浦市民協会の設立式典を無事挙げてまいりましたこと心から感謝致しております。

昨夜来の雨が、当日の朝になっても強く降り続き、式典はもちろん、流域市民との水辺の交流を目的とした「泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル」の開催も危ぶまれたほどでした。

しかし、開催時にはすっきりと晴れわたり、当協会の将来を予測するかのようだと一同感激をおぼえました。

また、ご来賓の方々から心温まる励ましのご祝辞を、さらに関東銀行さんからは設立にむけて多大なご寄付を頂き、役員一同大変な喜びと同時に社会的責任を痛感し、身の引き締まる思いであります。

社団法人霞ヶ浦市民協会設立の大きな目的は、第6回世界湖沼会議'95の「霞ヶ浦宣言」の精神を継承し、次世代に豊かな霞ヶ浦を遺したいという夢と希望の実現を目指す事にあります。

多くの皆様のご支援のもと、7月7日に設立総会を開催することができ、8月16日に県知事からの許可を得て社団法人霞ヶ浦市民協会として新たに発足いたしました。

今夏、各所で渇水が深刻な問題となっています。しかし、ここ霞ヶ浦は無事に過ごすことができました。

た。

この様に、霞ヶ浦は流域全体に多大な恩恵をもたらしているのです。それを思うときに我々の社会生活が湖にどれ程大きな影響を与えてしまっているかを忘れてはなりません。そのためにも、これから霞ヶ浦に向けて流域が一体となった「霞ヶ浦家族」を構成し互いに補完しつつ各自が責任を果たしていくことが求められていると思います。

社団法人霞ヶ浦市民協会は第6回世界湖沼会議での市民・研究者・企業・行政とが連携をはかったという成果をふまえながら、各々と緊張ある協調関係を保ちながらも絶えず市民としての役割を問いつけて活動してまいります。

皆様のご指導、ご支援を心からお願いし、ご挨拶とさせていただきます。

社団法人設立への道のり

世界湖沼会議成功という追風

昨年の世界湖沼会議は、大きな盛り上がりの中で成功しましたが、それには多数の市民の参加が大きく貢献しました。そして湖沼の環境問題の改善には、市民を中心として、行政、研究者、企業を含めた四者のパートナーシップが重要であることが「霞ヶ浦宣言」にも唱われました。

こうした状況を背景として、霞ヶ浦の市民活動を、公益法人設立によって強力に広範に推進していく必要性が地域社会のなかで強く認識されました。その結果、社団法人霞ヶ浦市民協会は、ブランクをおくことなく、タイムリーに実現したことになります。

活動実績がハードルをクリア

社団法人設立には、前提となる活動実績、しっかりした会員組織や役員体制、資金、スタッフなど、越えなければならないハードルはたくさんありました。それらを一つ一つクリアしていく原動力となったのは、20年以上の長きにわたる霞ヶ浦の市民活動の実績とあって間違いないでしょう。

古くは、常陸川逆水門開放を迫った漁民の運動、高浜入り干拓反対運動などまで遡ることができますが、直接、今日の市民活動の基礎になっているのは、土浦の自然を守る会(1972年発足)、霞ヶ浦をよくする市民連絡会議(1981年発足)、霞ヶ浦情報センター(1989年発足)、世界湖沼会議市民の会(1993年発足)などに加えて、消費者団体、粉せっけん運動、青年会議所など市民意識を持ち始めたたくさんの方々の方々の活動実績です。それがあったからこそ、社団法人設立が可能になったと言えます。

これらの団体は、ゆるやかなネットワークを形成し、紆余曲折を経

ながら、「霞ヶ浦をよみがえらせた」という共通の願いを中心にして、お互いに認めあって協力関係を築いてきました。

母体は、霞ヶ浦市民センターと

世界湖沼会議市民の会

近年の霞ヶ浦の市民活動の多彩な展開のなかで、特に霞ヶ浦市民センター(旧情報センター)と世界湖沼会議市民の会は、会員数の多さ、活動量の大きさなどに表れているように、裾野の広い活動を展開してきました。しかしながら、豊かな霞ヶ浦をめざすには、より一層の市民や企業の参加、行政、研究者とのパートナーシップの形成などが必要となります。それらをおしすすめるためには、交流・啓発、実践・研究などの持続的な活動の拠点が不可欠です。以上のような経緯から、1996年2月、社団法人設立発起人会発足に至りました。

新法人を設立し、再出発

設立発起人会の十数回にわたる議論の中で得られた重要な結論の一つは、既存の団体の延長線上ではなく、新たな社団法人を設立して、心機一転、再出発しよう、ということでした。この結論に達してからは、設立総会までの準備作業が軌道に乗り、趣意書、定款、組織図案などが次々に形を成していきました。もちろん、前述のように主務官庁である茨城県の許可を得るには、実績が重視されますから、これまでの霞ヶ浦市民センターや市民の会の活動や会員組織を母体とすることは当然です。

こうして、旧霞ヶ浦市民センター(法人設立にともない、事業の一切を譲渡して解散)の会員組織を核とし、すでに解散した旧世界湖沼会議市民の会の会員に入会をよびかけることで、7月7日の社

霞ヶ浦市

各界から

(社)霞ヶ浦市民協会 会報の創刊にあたって

茨城県知事 橋本 昌



この度、世界湖沼会議の成功に多大なご貢献をいただきました市民の皆様を中心としまして「社団法人霞ヶ浦市民協会」が設立されましたことを心からお慶び申し上げます。

霞ヶ浦は昔から人々の生活と産

団法人霞ヶ浦市民協会の設立総会に至りました。

市民の力で

霞ヶ浦市民協会を育てよう

市民が作った社団法人は全国的にもあまり前例がありません。これから社団法人を大きく育てていく過程においても、たくさんのハードルを乗り越えていくことが必要です。試行錯誤を繰り返しながらも、それらを一つ一つ、会員の協力でクリアし、堀越昭理事長が就任挨拶で述べたように、世界の市民活動のモデルとなるように、志を高く掲げて、進んでいきたいものです。

民協会 発進!

おめでとうのメッセージ

業を支え、多くの生物を育ててきた本県の貴重な財産であり、レクリエーションエリアとしても首都圏をはじめとする多くの人々に親しまれており、このすばらしい湖沼環境をいつまでも守り続けていくことが、私たちの責務と考えております。

県といたしましては、今後とも各種の水質保全対策の一層の推進を図り、水質浄化と湖沼環境の保全に努めてまいり所存でございますが、霞ヶ浦の水質浄化や湖沼環境の保全をより効果的に進めるためには、行政だけでなく研究者、市民、企業の4者がそれぞれのパートナーシップを構築し、取り組んでいくことが重要であります。

このような時に、霞ヶ浦の浄化や湖沼環境の保全を一層推進するため、志を同じくする市民の皆様が相集い「社団法人霞ヶ浦市民協会」を設立されましたことは、霞ヶ浦の環境保全を推進していく上において、画期的なことであり、今後の活躍が大変期待されるところであります。

皆様の事業活動が円滑に推進され、霞ヶ浦の水質浄化や環境保全をめざす市民活動の輪が大きく広がりますことと、この会報が霞ヶ浦の浄化と環境保全をめざす市民の皆さん一人ひとりをつなぐ情報紙となりますことをご祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。

地域に根ざした法人に

株式会社 関東銀行
取締役頭取 船岡正道



このたび、社団法人霞ヶ浦市民協会が設立されましたことを心からお慶び申し上げます。これひとえに、堀越理事長さんをはじめ、関係各位のご尽力のたまものと深く敬意を表する次第でございます。

貴協会は、第6回世界湖沼会議「霞ヶ浦'95」で採択された「霞ヶ浦宣言」の精神を継承して「泳げる

霞ヶ浦の実現」を理念に発足したものと伺っております。

霞ヶ浦およびその流域の浄化・保全をめざす市民活動が、人と自然の共生できる快適で文化的な地域社会づくりのために貢献できますよう大いに期待するところであります。

当行は、「豊かな社会づくりに貢献する」という理念から、協会の設立を記念して百万円を寄付させていただきました。湖沼の保全と再生のために引き続き協力をさせて頂く所存でございます。

今後、貴協会が、次の世代へ美しい水辺や安心して飲める水など豊かな霞ヶ浦を残し、地域の皆さまに信頼され、地域に根ざした公益法人として、大いに発展されますことを心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

柔らかく、したたかな市民

茨城大学農学部教授 高村義親



第6回世界湖沼会議を成功させる原動力になった市民のエネルギーと経験が途切れることなく、社団法人霞ヶ浦市民協会に結集されたことを心からお祝い申し上げます。市民、科学者、行政、企業のパートナーシップということが、世界湖沼会議のキーワードの一つでした。しかし、四者の中で市民は別格と、私は思っています。市民はいつも自発的で、自由・平等な個人であり、なにものにも従属しないのに対し、科学者、行政、企業は何かの形で、それぞれの利益にかかわる“職業的論理”に縛られているからです。本来は、客観的かつ中立であるべき、科学者・研究者も自分の業績や所属に対する配慮、あるいは研究費欲しさから、必ずしもそうではありません。行政担当者には、縦割行政をはじめとする種々の“官僚のしがらみ”があります。企業にはもとより“資本の論理”があります。これらの三者に対し、“職業的論理”を部分的にせよ解き放ち、新たな価値観の形成を促しているのは、柔らかく、したたかな市民に他ならないと思うのです。霞ヶ浦という環境と資源を、消耗し尽くさず、損ないつくさず、生態系の営みを維持しながら共存していくことの重要性は、多くの人々に理解されてきております。この理念をどのように実現させていくかがこれからの課題と思えます。霞ヶ浦市民協会は霞ヶ浦という共通の土俵で手をつなぐ四者のパートナーシップの要になるものと確信します。

グラフィティ

泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル&霞ヶ浦夏休み教室



亀城太鼓で音楽祭開幕。さあ寄っといで



ヨットセーリングで霞ヶ浦の広さを実感



かっこいいぞ、ターザンジャンプ



Eボートは楽しいな。笑顔がいっぱい



にぎわったフリーマーケット。食べ物から雑貨品まで

K-NET ダイジェスト

1996年8月

本欄では、霞ヶ浦に関連する新聞記事の見出しを中心に、ダイジェストを収録しています。

(収録紙、A:朝日、Y:読売、M:毎日、S:産経、T:東京、I:茨城、J:常陽、S I:新しいばらき)

7日 霞ヶ浦環境創造ビジョン策

定委、第三回目会合。霞ヶ浦新時代に即応した基本構想策定へ(J)、「授業に役立てて」霞ヶ浦導水事業の進行状況つぶさに。小学校教諭ら、水源池施設見学会(S I)

8日 ソーラー電源で「流動口過システム」水質浄化実験、土浦港で(J)、霞ヶ浦水質浄化標語入賞者表彰式、出島村で(J)

9日 霞ヶ浦の区画整理事業農地

に多数の渡り鳥飛来(J)

13日 波崎町の第2 銚子大橋計画地にヒヌマイトトンボ生息、県も再調査へ(I)

15日 縄文時代の霞ヶ浦の漁業紹介、出島村郷土資料館で特別展(J)

17日 霞ヶ浦のブラックバス半減、ブルーギル倍増。県内水試の推定(J)、ドラゴンレースに沸く出島あゆみ祭り(S I)



アシの紙すきに挑戦。私にもできるかな



船上で湖水の透視度測定
あっ！ 底の十字線が見えたよ



霞ヶ浦夏休み教室で宿題はばっちりOKだ



プランクトンを顕微鏡で観察。不思議なかたちね



ビオパークの生き物調査。何がとれるかな。あっ！ ゴロだ

19日 「潮来あやめ祭り、また来たい」アンケート結果、嫁入り舟が好評(J)／鹿行大橋架け替えへ、漁業補償まとまる(I)

20日 霞ヶ浦市民協会に社団法人設立許可書交付(Y)

21日 利根川水系、20%の取水制限(I)

22日 那珂導水路メド立たず。「生態系など影響心配」地元漁業者の反発強く(Y)／社団法人

霞ヶ浦市民協会堀越昭理事長インタビュー「泳げる霞ヶ浦の実現、孫の代までに何とか」(A)

23日 流況悪化あれば取水制限も。那珂、久慈川濁水で調整協(T)

24日 土浦市周辺の県立5高の浄化槽整備、県の9月補正予算で(I)

28日 霞ヶ浦流入の恋瀬川改修、

植物移植し多自然型へ、県が計画(A)

29日 間伐材活用でアサザ保全、市民グループや地元漁協の要望で建設省が実験。「そだ沈床」工法も(I, Y, J, 30日A, J, 26日T)

30日 土浦周辺の4流入河川、400カ所の水質調査によって詳細に汚濁源分析へ、住民参加で(J)

理事ひとことメッセージ



理事長 堀越 昭

生まれも育ちも生粋の土浦っ子。根っからのお祭り男を自負しています。子どものときは、山や川で昆虫や魚を追い、今は山奥の溪流で岩魚や山女魚を追っています。源流の「本物の水」の色、味等に感動し、そのロマンを霞ヶ浦にかけます。



副理事長 鬼沢一彦

生まれも育ちも東京っ子の私は、蛇口をひねれば水は出る感覚でした。青年会議所運動の一環として関わった世界湖沼会議をきっかけに、霞ヶ浦、水、環境に興味を持つようになりました。どうぞよろしくお願ひします。



副理事長 真山淑枝

土浦市生まれ。1970年より霞ヶ浦浄化活動に関わる。第5回世界湖沼会議(イタリア)に県調査団として参加、世界湖沼会議市民の会結成に関わる。現在霞ヶ浦暮らしのネットワークを主宰し、新たな流域文化の創造を目指す。

○連続シンポジウム第1回「世界湖沼会議から1年」

世界湖沼会議開催を記念する連続シンポジウムの第1回として、「世界湖沼会議から一年～流域管理と環境容量」をテーマに講演と質疑によって認識を深めます。

日時:11月17日(日)13:30~16:30
場所:土浦・国民宿舎「水郷」大会議室
主催:(社)霞ヶ浦市民協会
後援:茨城県、土浦市、建設省霞ヶ浦工事事務所、霞ヶ浦問題協議会、大好きいばらき県民会議
参加対象:一般市民、入場料:無料
講師:田淵俊雄元東京大学教授、相崎守弘島根大学教授

○第一回「泳げる霞ヶ浦市民提言賞」作文・論文募集

社団法人霞ヶ浦市民協会設立を記念して、霞ヶ浦浄化への市民のアイデア、知恵を広く募集します。入賞論文を刊行して啓発・実践から地域づくりをめざします。

主催:(社)霞ヶ浦市民協会
後援:茨城県、土浦市、建設省霞ヶ浦工事事務所、霞ヶ浦問題協議会、大好きいばらき県民会議
応募資格:高校生以上の学生・社会人
作文・論文形式:4000字以内。必ず原稿用紙使用。ワープロ原稿も可。
原稿送り先:〒300土浦市川口2-13-6(社)霞ヶ浦市民協会「泳げ

る霞ヶ浦市民提言賞」係。応募〆切:平成8年12月25日(当日消印有効)までに郵送。応募原稿の返却はいたしません。必要な方はコピーを保存してください。
入賞:最優秀賞一編 賞状及び副賞5万円、優秀賞2編 賞状及び賞金1万円
入賞者の発表:平成9年2月中旬。
論文テーマ例:
・私が考えた霞ヶ浦浄化対策
・霞ヶ浦浄化と観光振興
・地域活性化と霞ヶ浦
・霞ヶ浦の市民活動への提言
・世界湖沼会議で学んだことなどユニークなテーマでの応募をお待ちしています。

筑波の友

『筑波の友』は購読者の皆様に支えられています
年間購読料4000円・郵便振替00380-8-35548/一部書店にて1冊300円

〒305 茨城県つくば市 東新井16-2 107号 株式会社 STEP TEL 0298・58・0376 FAX 0298・55・5932

学ぶ子達よ!素直で強くあれ!

須田義塾

小3~高3
受験指導

本部・高津教室 ☎0298-24-0761
高津第二教室 ☎0298-24-1751
高校生教室 ☎0298-24-8098
阿見S・C教室 ☎0298-88-8343

事務局日誌

6月

- 24日 発起人会
- 26日 記者クラブ訪問(社団法人霞ヶ浦市民協会設立総会について)
- 28日 NHK茨城県視聴者会議(水戸、NHK放送局)

7月

- 1日 発起人会
- 2日 霞ヶ浦工事事務所土浦出張所打合せ(土浦)
- 3日 県霞ヶ浦対策課打合せ
- 7日 設立総会
- 7日 理事会(第1回)
- 9日 水環境フォーラム'96「水環境賞」受賞報告(県知事)
- 11日 ヨットフェスティバル霞ヶ浦'96打合せ(土浦)
- 18日 県霞ヶ浦対策課打合せ(県庁)
- 18日 理事会(第2回)
- 20日 ヨットフェスティバル霞ヶ浦'96出席
- 22日 県霞ヶ浦対策課・霞ヶ浦市民協会意見交換会(土浦第一ホテル)

- 25日 「川の日」シンポジウム参加、堀越理事長パネリスト
- 28日 新事務所に引っ越し
- 29日 泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル第1回実行委員会
- 31日 クリエイティブ・スタジオ・アダック(株)インタビュー(建設省関連)

8月

- 5日 泳る霞ヶ浦市民フェスティバル第2回実行委員会
- 7日 霞ヶ浦工事事務所打合せ(潮来)
- 12日 事務局会議
- 19日 社団法人霞ヶ浦市民協会設立許可書伝達式(県知事)
- 19日 泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル第3回実行委員会
- 21日 広報委員会
- 23日 会報準備号発送
- 23日 事務局会議
- 26日 霞ヶ浦環境センター(仮称)基本構想策定委員会幹事会(第2回)
- 27日 記者クラブ訪問(泳げる霞ヶ浦市民フェスティバルについて)
- 27日 「霞ヶ浦夏休み教室運営

- 業務]発注(霞ヶ浦工事事務所)
- 27日 泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル第4回実行委員会
- 27日 臨時理事会(第3回)
- 30日 事務局会議

霞ヶ浦市民協会広報紙のタイトルを募集します

(社)霞ヶ浦市民協会では、このたび創刊した広報紙(霞ヶ浦市民協会NEWS)の新しいタイトルを募集します。

霞ヶ浦をとりまく多くの人々を結ぶネットワーク紙にふさわしい名前をつけてください。

応募資格は問いません。

応募される場合は、官製ハガキに郵便番号・住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記のうえ、「広報紙名」を書き添えて11月30日までに当協会へお送りください。

採用された方には、図書券(1万円分)を、優秀作5名の方には図鑑「霞ヶ浦の魚たち」(霞ヶ浦情報センター刊)をプレゼントいたします。ふるってご応募ください。

理事ひとことメッセージ



副理事長 吉田 薫

小学生の時に「埋め立てられた霞ヶ浦」の上を車でどこまでも走る夢をみました。それ以来、霞ヶ浦が私に何かを訴えているような気がしてなりません。出来る事は何でもやってみようという気持ちで参加しています。



副理事長 奥井登美子

昨年の世界湖沼会議で分科会報告者を引き受け、おかげで参加型住民運動、環境教育などの世界的流れを知ることが出来ました。今後この地域に、この会議の内容をどう活かして定着させていくかが、課題だと思います。



副理事長 荒井一美

昭和28年、玉造町生まれ。ライフワークの「霞ヶ浦」と関わり続けて15年。土浦青年会議所時代、第2回水郷水都全国会議に実行委員として参加。それ以後、霞ヶ浦に関する公益法人設立に取り組む。A-1建築事務所代表。



**土浦バイオパーク
2700人の署名で存続決定！**

先頃開催された「泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル」の会場にもなった『土浦バイオパーク』は、湖水の浄化施設兼親水公園として市民から親しまれる一方、全国から見学者が相次ぎ、「同様の施設を作りたい」という引合いがくるほどです。しかし、この場所は港湾施設として茨城県が管理していたところを、建設省が2年間の期限で借りているため、このままではせつかくの施設が来年3月で撤去になります。

そこで、市民団体「バイオパーク友の会」(吉田薫会長)では存続のための署名運動を行っていましたがこのほど約2700人分の署名が集まり、建設省霞ヶ浦工事事務所に提出しました。吉田会長は「バイオパークは、霞ヶ浦の水をきれいにしながら、市民が野菜を摘んだり、子どもたちが自然観察する場にもなっており、ぜひ残してほしい」と要望しました。この要望を受けて、建設省が茨城県と協議した結果、存続が決まり、吉田会長は「積極的にバイオパークを利用し、霞ヶ浦浄化に役立たい」と話しています。



水質浄化施設のある土浦バイオパーク

**森から湖への贈り物
間伐材の波消し施設**

霞ヶ浦流域では、全国の例にもれず、杉や桧の植林地の間伐が遅れて、木材価値が低下しているところが多くなっています。30年ほど前までは、間伐材は工事現場の足場、稲を干す支柱、坑道の支柱などに利用されたのですが、現在ではほとんど用途がありません。間伐されないため、用材価値の低下だけでなく、森林の荒廃、保水力の低下、山林労働者の失業など様々な問題が生じています。

このような現状から「霞ヶ浦・北浦をよくする市民連絡会議」では、建設省霞ヶ浦工事事務所や北浦漁連の協力を得て、北浦の山田川河口右岸(姉崎)の浅瀬に、間伐材利用の杭を列状に打って波消し施設を設置しました。この施設はまだ実験段階の小規模なものですが、同連絡会議では先頃、美野里町の幼稚園児らとともに、杭の内側の浅瀬にアサザの苗を植え付け、波消し効果を追跡

調査していくということです。

またその近くでは、波消しと漁礁を兼ねた「そだ沈床」も設置する予定です。林産物を湖の生態系の復活に利用する試みは、全国的にも例が少なく、結果が目まざまざと見えています。

**第12回水郷水都全国会議
徳島大会が開催**

第12回水郷水都全国会議徳島大会が「川と日本」というテーマで、8月3日(土)・4日(日)徳島教育会館/徳島看護会館(徳島県)で開催されました。主催は水郷水都全国会議、徳島大会実行委員会で開催された。大会会長は三木睦子さんでした。

大会の趣意は、「生活の利便化を求める都市化の進行は、川を閉じ込め水を大量消費する治水利水のシステムを作りだし、その結果川の豊かな自然が失われ、人とのかかわりが希薄になり、自然災害の危険が増大してきた。世界的な環境問題として、川とのかかわり方を再考する

セントラル科学株式会社

茨城営業所/土浦市港町1-4-19フコー第2ビル ☎0298-24-3398 FAX0298-24-6236
 本社/東京都文京区本郷3-23-14ショウエイビル ☎03-3812-9186 FAX03-3814-7538
 他支店/営業所 大阪・福岡・千葉・名古屋・横浜

NAKAGAWA SHŌJI

2001年快適空間を創造する

中川商事株式会社

〒300 茨城県土浦市真鍋1-11-12 ☎0298-21-3731代

必要がある。」であり、会の目的は、「川の収奪」から「川との共生」への過渡期である現在を、広く世界史的な視野で捉えることと、その具体的な事例を学ぶことの2つであると指摘しています。次に大会の日程をあげておきます。

3日/第1分科会「川と市民」 第2分科会「川と山村」 第3分科会「川とくらし」 第4分科会「川と技術」 第5分科会「川と生き物」 第6分科会「川と水質」 野外交交流会
4日/全体会「特別報告 川と未来 ニコラスG.アウメン(南フロリダ地域水管理局)」 「記念講演 川と文明 梅原猛(哲学者)」 「総括討議 三木睦子」大会宣言

以上のような日程と趣旨で本年度の水郷水都全国会議が行われました。徳島は連日の気温36度以上で暑い日が続きましたが、それにもまして熱のある発表や討議がなされました。また今回の会議の特徴は、外国からの特別報告や、行政からの発表が多かったことです。来年の会場は中海・宍道湖を持つ島根県です。

大好きいばらき in 山方町 人と川を結ぶ交流の集い

大好きいばらき「人と川を結ぶ交流の集い」が9月14日(土)茨城県那珂郡山方町高齢者センター・清流公園芝生広場で「大好きいばらき県民会議」の主催で開催されました。(社)霞ヶ浦市民協会も後援団体となりました。

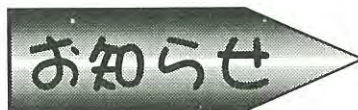
開催の趣旨として、きれいな水、そして美しい環境を子どもたちに伝えることが、私たちに与えられた大きな課題のひとつとなっている今、河川や湖沼の水質浄化や環境保全活動の事例報告を聞き、発表者、参加者がともに「私たちに何ができるか」を考え、水質浄化のネットワークを作っていくことを目的としています。

「第1部 水質浄化報告・交流会」河川や湖沼の浄化はその一部分だ

けを取り上げても浄化につながりません。川や湖は、上流、中流、下流、湖、海と連携しているのです。今回は久慈川を取り上げ、上流は福島県の棚倉町、中流は県内の山方町、下流は日立市から、また石岡市の山王川、土浦市の霞ヶ浦からの報告もありました。霞ヶ浦からの発表は、当会会員の中里広幸さんで、土浦ピオパークにおける水耕栽培による水質浄化などについて発表しました。このあと「久慈川宣言」が各種イベントで賑わう久慈川の河原(清流公園)で行われました。宣言にもあるように、上流と下流をつなぐことは、過去と未来をつなぐことであり、次代の子どもたちへ心と行動をつなぐことでもあります。

「第2部 川と遊ぼう」清流公園で行われました。川の生き物やパネルの展示/水質測定教室/川の生き物観察会/河原の石ころアートコンテスト/ペットボトルロケット作成教室/ミニ4駆レース大会/投網実演などが行われ、ペットボトルロケットとミニ4駆大会は子どもたちの人気の的でした。

今回の企画には当会会員の吉田薫(実行委員霞ヶ浦市民協会)、真山淑枝(大好き茨城県民会議企画委員)、高木純子(同推進委員)が委員としてかわりました。



○市民のための自然エネルギーを考える会

多様な環境問題を自然エネルギー(太陽光、風力、リサイクルなど)利用促進の視点で市民の立場から考える。湖沼問題との関連も。
主催:自然エネルギー市民会議
日時:11月4日(月、振替休日)10:20~16:15

会場:土浦市亀城プラザ

講師:環境庁、通産省、太陽エネルギー学会などから多数の講師、

市民参加のワークショップ、パネルディスカッションあり
参加費:無料、ただし資料代300円(予定)
問い合わせ:実行委員会事務局
(TEL:0298-41-4292,FAX:0298-43-2955)



いばらき湖沼環境フェア'96

日時 平成8年11月8日(金)
9日(土)

場所 湖沼周辺3町村

主催 茨城県、湖沼流域水質浄化対策協議会

11月8日(金)

1)いばらき湖沼会議

(大洗文化センター)10:30~16:00

基調講演 幸田チャーミン氏

／事例発表/パネルディスカッション

県内の湖沼が抱えている富栄養化の問題について討議し、解決策を探ります。

2)こども環境会議(いこいの村湖沼)13:00~16:00

環境問題に関して子どもたちが日頃から調査・研究している成果を発表し、討議をします。

11月9日(土)

湖沼環境フェスティバル

(茨城町湖沼自然公園)9:30~15:00

1)イベント広場 湖沼の水質浄化ポスター等表彰式/郷土芸能、コーラス発表/ドジョウ、シジミつかみ取り/湖沼、霞ヶ浦、牛久沼流域特産物販売/水に因んだのど自慢、大声大会/水質浄化キャンペーンなど

2)自然観察会、湖沼ウォークラリー

霞ヶ浦くらしと自然

山口ヒロナリ写真集「霞ヶ浦」(STEP刊)より



雪のあした 玉里村 1988



家路 麻生町 1981

霞ヶ浦を撮り続けて30年



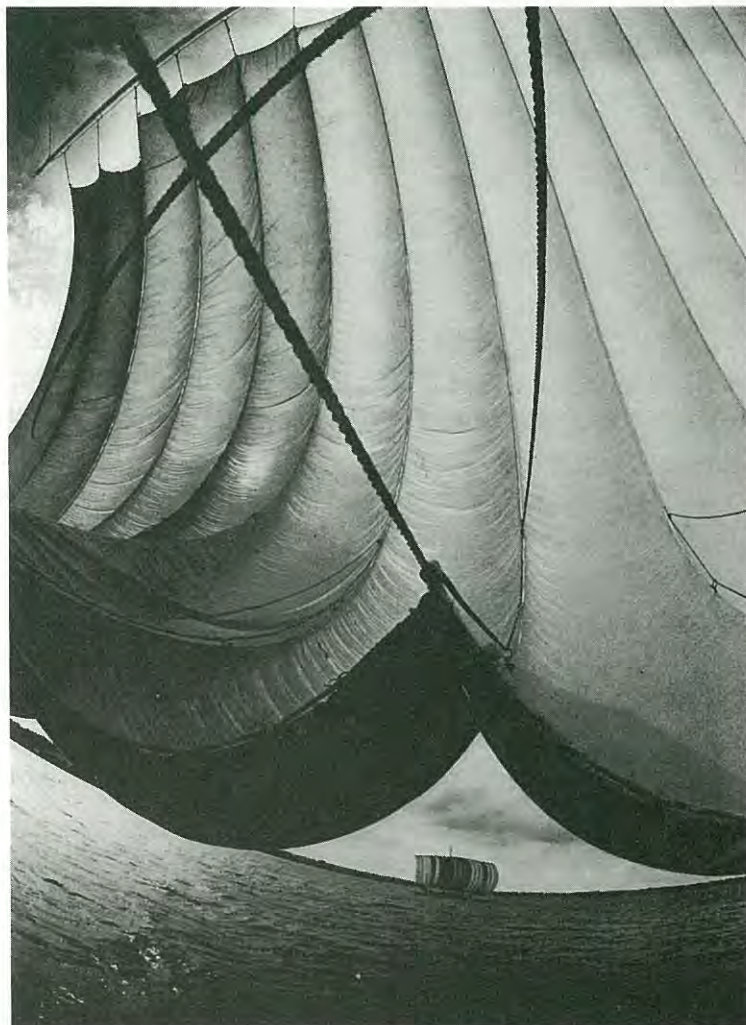
山口ヒロナリさん

1947年生まれ／玉里村在住

日本報道写真連盟東日本本部委員

農業のかたわら、ふるさと玉里村の光景と霞ヶ浦を写し続けている。

(これらの作品は、山口さんのご好意により掲載させていただきました)



帆曳漁 麻生町1980



呼吸を合わせて 石岡市 1987

**(社)霞ヶ浦市民協会からの
お知らせ**

【事務局の業務時間のご案内】

業務時間:午前9時～午後6時(日・祭日及び第2、第4土曜日休み)

なお、来局の方は、できるだけ電話で時間を予約の上、午後5時までにしてお下さい。午後5時に建物正面玄関入口が閉まるため。

事務局には、霞ヶ浦や水辺の環境問題に関する約3000点の資料があります。会員・非会員を問わず、お気軽にご利用下さい。

【会員募集中】

当協会では、この秋、新入会員募集キャンペーンを行っています。

カラー刷りの入会案内リーフレットができています。必要な方は電話等で部数をお知らせいただければ、すぐお送りします。

個人会員:1口3,000円/法人会員・団体会員:各1口10,000円

イベント情報

平成8年10月

- 1日(火) 霞ヶ浦・児童のいたずら座(土浦市中央、にぎわい蔵)
- 4日(金) 湖沼環境等アオコに関する講演会(東京・野口英世記念会館、日本環境化学会主催)
- 5日(土) 霞ヶ浦研究会フィールド観察会(建設省の湖岸施設の見学)/花室川の生物調査(学園都市の自然と親しむ会主催)/全国花火競技大会(土浦市・桜川)
- 6日(日) 土浦穴塚大池月例観察会「秋のむしをさがそう」(穴塚の自然と歴史の会主催)
- 10日(木・祝) ぐるり手賀沼探検26(ふれあい手賀沼の会主催)
- 12日(土) 古利根沼秋のクリーン

- 大作戦(我孫子市主催)
- 13日(日) つくば市洞峰公園探鳥会(日本野鳥の会茨城支部主催)/土浦市乙戸沼公園探鳥会(日本野鳥の会茨城支部主催)
- 26日(土) 大杉神社秋の例大祭・あんばばやし奉納(桜川村)
- 27日(日) 石岡市龍神山探鳥会(9:00～12:00、常陸風土記の丘駐車場集合、山麓の鳥や渡来直後の冬鳥、日本野鳥の会茨城支部主催)
- (霞ヶ浦など水辺の自然や文化に関する催し、年中行事、観察会、講演会、集会などの情報をお寄せください。なるべく前月の15日までに)

**ご意見・ご提言・投稿など
どしどしお寄せください**

編集部では、会員の方からのご意見・ご提言・投稿などを掲載するコラムを企画しています。

霞ヶ浦に関すること、当協会へのご意見、本紙に対するご提言など、

どんなことでもけっこうです。お気軽に封書・ハガキ・ファックスなどでお寄せください。

第2号から積極的に掲載していく予定です。

宛先:〒300 茨城県土浦市川口2-13-6
FAX 0298-21-6209
TEL 0298-21-0660

新入会員 (7月7日～9月15日)

【個人会員】 三津井修、横山律子、篠捷子、原田久助、長嶋章、佐竹守正、清水鉄也、中嶋美恵子、中嶋郁郎、酒井亨、川又晁、御田寺信郎、柳沢正男、小更清、小竹俊夫、谷崎彰、新村友英、飯田和江、国谷紀夫、河合隆、小林敏郎、萩原英彦、吉原盛昭、中原敏、久重光人、菊地雅史、辻英二、清藤恵子、堀越雄二、中島保男、寺田正道、小松正、荒木浩夫(土浦市)、島田弘(八郷町)、内山武(江戸崎町)、大島幸恵、氏家陽子、石津昭三、岡田久司、田中博子(つくば市)、内田豊(古河市)、佐川勝利(竜ヶ崎市)、大津山紘(水海道市)、大河内宏康(岩井市)、鹿志村啓子(美浦村)、宮嶋光昭、大槻恭子、長峰美智、島田道子(出島村)、小沼政夫(鹿嶋市)、中山智明、宮本克樹(牛久市)、にいほり園(新治村)、飯田士朗(瓜連町)、斉藤義則、龍鼻章、望月貴(水戸市)、清水行雄、楠忠男、堂込正進、四井克彦(阿見町)、小倉なつみ、植田貞子、福嶋敏(石岡市)、船橋一富、森角武久(千葉

県)、伊藤勉(岩手県)、堀内力(埼玉県)、山見尚喜、島正之、柴早苗(東京都)、坂口恵美子(神奈川県)、五百田定(広島県)

【団体会員】 つくば市谷田部くらしの会会長本多清子(つくば市)、土浦南ロータリークラブ(土浦市)、つれづれの会(岩瀬町)

【法人会員】NOA設計事務所(つくば市)、エコ・ジャパン、日本電気精器(東京都)、ヤマダイ商事、安田生命土浦支社、マルゼン、丸木屋製作所、プリマハム土浦工場、ハンド・ニット・チェリー、野村太助商店、新栄流通サービス、産婦人科土浦病院、齊田材木店、内田商会、星電機、鮫処中里、エタニ石油、三和電業、石田幸一商店、宇田川石油、東和工業、水戸通信工業土浦営業所、協同組合土浦総合流通センター、片岡不動産(有)(土浦市)、住友金属工業鹿島製鉄所環境エネルギー部長(鹿嶋市)、梶進工務店(阿見町) [敬称略]

【ご寄付】 鷲見博生さん 5000円、匿名 2000円、瀧井宏臣さん 2000円、梶原日出隆さん 2000円、古賀那雄さん 未使用切手多数

「霞ヶ浦市民協会NEWS」(仮題) Vol.1 No.1



発行日:1996年11月10日

発行所:(社)霞ヶ浦市民協会 〒300 茨城県土浦市川口2-13-6

発行者:堀越 昭

編集者:高木純子・沼沢 篤・今泉文彦